

令和6年度
群馬県文化賞

受賞者・受賞団体の功績概要

群馬県

◎文化功労賞

個人の部

さいとう こうてい

齋藤 黄庭（高崎市）

【芸術（書道）】

（一社）群馬県書道協会事務局長として、中心的な役割を果たしており、組織・事業運営に尽力し、県民の書道文化の振興に寄与している。

また、長年にわたり、書道作品を発表しており、書道の技術の向上と後進の育成に努めてきた。

ますだ たけし

増田 毅（渋川市）

【芸術（写真）】

長年にわたり、群馬県写真展の運営に携わり、群馬県写真文化協会の発展に尽力し、県民の写真文化芸術活動に寄与している。

また、県写真展に特別出品者（委嘱作家）として、模範となる作品を展示し、写真文化の普及に努めてきた。

ほりえ ゆりこ

堀江 百合子（沼田市）

【文化全般（華道）】

長年にわたり、華道展等に出展するとともに、華道教室や生花ボランティア活動を通じ、文化の面から積極的に社会貢献活動に取り組んできた。

また、沼田市文化協会監査として、地域の文化の発展に寄与している。

さいとう あきら

斉藤 晃（吉岡町）

【文化全般（カラオケ）】

陣場カラオケ愛好会を立ち上げ指導者として普及活動を行うとともに、吉岡町内で横断的な団体（連絡協議会）の設立を推進し、地域のカラオケ文化の発展に尽力してきた。

また、吉岡町文化協会副会及び会長として10年間にわたり、同協会の発展に寄与するとともに、その後は顧問として同協会の活動を支え、地域全体の文化の振興に貢献している。

しもや とものぶ

下谷 友伸（嬬恋村）

【文化全般（文化協会の活動）】

嬬恋村文化協会会長として、中心的な役割を果たし、地域の芸術・文化の振興に寄与してきた。

また、県書道展や毎日書道展に入選するとともに、書道団体を主宰し、指導するなど地域文化の向上に貢献している。

団体の部

にのみやまちむけいぶんかざいほぞんかい

二之宮町無形文化財保存会（前橋市） 【民俗芸能（神楽・雅楽・式三番叟）】

前橋市二之宮町に伝わる郷土芸能の神楽・雅楽、式三番叟の保存・伝承のため、長年にわたり尽力してきた。二宮赤城神社例大祭などにおいて、神楽・雅楽、式三番叟の公演を定期的に実施している。

また、郷土芸能伝承者の資質の向上、後継者の育成、保護思想の普及を積極的に行い、地域における郷土芸能の振興・発展に寄与している。

たかさききょうどしかい

高崎郷土史会（高崎市） 【文化全般（郷土史）】

昭和23年に「鬼城会」として結成されて以降、県内外の史跡巡りや文化講演会の開催、勉強会、歴史体験学習など、活発に活動が続けてきた。郷土の歴史民俗を探究するとともに、郷土史の継承や地域文化の向上に寄与している。

おおやぶししまいほぞんかい

大藪獅子舞保存会（吉岡町） 【民俗芸能（獅子舞）】

長年にわたり、吉岡町大藪地区に伝わる獅子舞の継承と保存に尽力してきた。地域の祭りに獅子舞を奉納する他、町内外で積極的に発表し獅子舞の普及・促進に努めている。また、群馬県で開催された第16回国民文化祭獅子舞フェスティバルでは、県代表の1つとして獅子舞を披露する他、明治神宮では、3回、獅子舞を奉納している。

おうらまちさかどうかい

邑楽町茶華道会（邑楽町） 【文化全般（茶道・華道）】

長年にわたり、地域における幅広い年代の人たちに対する茶華道の普及活動に積極的に尽力してきた。また、小学校や子ども向けイベントなどで、子どもたちへの茶道文化体験活動を行い、後進の育成に取り組むとともに、地域文化の向上に寄与している。

◎文化奨励賞

個人の部

くぼ こういち

久保 晃市（高崎市） 【文化全般（発明）】

9歳で、高崎少年少女発明クラブに入り、ものづくりを本格的に始める。以降、毎年、発明くふう展に出品するための発明作品を創作。令和6年に行われた世界青少年発明工夫展では銀賞を受賞するなど、その功績は卓越している。

やまもと けい

山本 慧（伊勢崎市）

わたなべ とうや

渡辺 桐矢（伊勢崎市）

あかいし はじめ

赤石 基（みどり市） 【文化全般（プログラミング）】

7歳で、プログラミング教室に通い始める。昨年1月に同教室メンバー3人による「ホットチキン」を結成。令和6年に行われた小・中校生対象の国際的なロボットプログラミングコンテスト「WRO(ワールド・ロボット・オリンピック)」で5位に入賞するなど、その功績は卓越している。